

# 平成20年4月学術講習会

(社)日本鍼灸師会  
(社)東京都鍼灸師会

主催

厚生労働省後援 通算 676 回  
(2008.4.27)

演題および講師

鍼灸理論編

## ・「ストレスと免疫」

免疫と鍼灸

昭和大学医学部 第1生理学教室 主任教授 久光 正

鍼灸治療編

## ・「経筋治療の基礎と実際」

明治国際医療大学鍼灸学部 伝統鍼灸学教室 教授 篠原 昭二

## 「ストレスと免疫」

免疫と鍼灸

久光 正

鍼や灸を機械的刺激や温熱刺激と考えることにより鍼灸を生理学的に捉えることが可能となる。最近、神経系と免疫系の密接な関連が注目されている。鍼灸刺激という末梢刺激が神経系を介して中枢に連絡され、免疫系に変動が生じることは十分予想できることである。ストレスは免疫力を低下させ、あるいはリウマチなどの自己免疫疾患を悪化させることはよく知られている。鍼灸は関節リウマチや気管支喘息など免疫関連疾患に効果があるといわれ、また、実際、動物実験

で鍼灸刺激によって免疫担当細胞の活性に変化が生じることが明らかになっている。

免疫担当細胞の一つであるナチュラルキラー（NK）細胞は免疫応答の第一段階および最終段階で働き、免疫系の活動性判定の指標になる。ラットの足三里相当部位への鍼刺激によってNK細胞活性が亢進することが明らかになった。IF- $\gamma$ レベルの上昇がメカニズムに関わっているようである。

関節リウマチに対する鍼灸の効果が知られている。そこで、マウスにリウマチ様関節炎を作成し、鍼灸刺激を加えたところ、鍼灸いずれも抗体産生、炎症性サイトカインなどを有意に抑制し、関節炎症状の悪化を予防することが明らかになった。特に炎症性サイトカインの mRNA 発現を抑制したことは鍼灸が遺伝子レベルに作用することを示唆するもので注目される。免疫に関与する細胞の分画にも鍼灸が影響することも明らかになりつつある。

ストレスによる生体への影響のひとつに血流の減少がある。血流に影響する要素を大きく分けると心臓・血管系の要素と血液の要素がある。ストレスにより血液自体の流動性が低下し、これは交感神経の関与による主として血小板凝集能の増加によることが明らかになった。ストレスの多い状態では心筋梗塞や脳梗塞の発症が増加するといわれている。鍼刺激が条件によって血液流動性を増加するという結果が得られつつある。

当教室の研究結果を交えて鍼灸と免疫についてお話する。



昭和大学医学部 第1生理学教室 主任教授 久光 正

## 「経筋治療の基礎と実際」

篠原 昭二

### 1. 経筋について：黄帝内経靈枢・経筋篇第十三

経筋の出典は、『靈枢・経筋篇（第13）』にもとづくが、経脈とは異なり、体表面の主として筋肉系統を連絡するルートである。

### 2. 経筋病

身体を動かしたときのつっぱり、引きつり、痙攣、痛み、麻痺が経筋病である。このことは、靈枢経脈篇および経筋篇に記述された病証について比較すると明らか

かであり、経脈篇では全病証にしめる運動器系愁訴の比率は約 32%であり、これに対して経筋篇では 86%に達する。したがって、鍼灸臨床で最も多い運動器系愁訴の多くは、経筋病と深く関わっていると言えよう。

### 3．経筋病の治療

霊枢経筋篇では、「痛を以って愈と為す」とされ、治療点は圧痛点であり、治療法は「燔鍼劫刺」とされ、焼き鍼での速刺速抜と記述されている。

一方、霊枢・邪氣臟腑病形篇には、「榮愈は外経を治す・・・」と書かれていることから、榮穴や愈穴は経脈、経筋、皮部の病にも使えるものと考慮して、経筋病に対して応用した。その結果、疼痛部局所へ焼き鍼での刺激をしなくても、簡単に治療効果を期待しうる事が分かった。

### 4．筋肉痛が生じると榮穴に過敏点が出現する

大腿四頭筋および上腕二頭筋の遅発性筋痛を作成すると、筋痛出現時点において、魚際や内庭といった榮穴の痛覚過敏が生じることが明らかとなった。このことは、局所の筋痛と末梢の榮穴との間に密接な関連があることを示すものであり、経絡現象の一指標となるものと思われる。

### 5．経筋治療は経筋病が対象

膝痛といえども、整形外科的な現代的鍼灸の適応とばかりは言えない。東洋医学的な観点から見ると、( 1 ) 外感によって局所的な気血の停滞が生じて起こったもの、( 2 ) オーバーユースや打撲、捻挫等によって生じた経筋病、( 3 ) 経脈異常の一症状として出現した経脈病、( 4 ) 臟腑病から、経脈、経筋へと波及したものなどに分類することができる。経筋治療は、経筋病のみが対象であり、他の病態に対する治療手段も習得しなければならない。



明治国際医療大学鍼灸学部 伝統鍼灸学教室 教授 篠原 昭二